

スポーツ言語学、スポーツと言語教育

清水泰生

(同志社大学)

スポーツ言語学会が9月に創立した。本発表でスポーツ言語学とは何か、スポーツ言語学、スポーツと言語教育等に果たす役割についてVTSを中心に述べてみたい。

スポーツ言語学の分野を大きく分けて五つある。

- その一 スポーツ用語に関する研究
- その二 スポーツのメディア媒体に関する研究
- その三 競技者、指導者等のやり取りに関する研究
- その四 外国語習得にスポーツ、身体運動を用いる
- その五 その他

その中で国際表現言語学会に直接関係するのはその二とその四であろう。

その二は、スポーツ実況分析の会話分析等である。これは当学会でも清水泰生が研究発表を行った。その四についてであるが、これから大いに研究、実践していかなければならないテーマである。特にVTS法について大いに研究が行われなければならない。VTS法は川口義一氏等の実践、研究が有名であるが、それを応用、発展させた研究、実践が少ないように思われる。そして、川口義一氏等の実践、研究が日本語教育以外のところで貢献できることを示した研究、報告は、私が知る限りほとんど見当たらない。

本発表で、川口義一氏等の研究をさらに発展、応用できないかについて考えてみた。その一つに川口義一氏のVTSのバリエーションとしての「ことわざを使ったVTS法」が考えられる。そして、川口義一氏等のVTS発展、バリエーションの可能性の一つに体操も考えられる。日本の体操にはラジオ体操、ストレッチ体操、ゆる体操などいろいろあり、そして、1992年フジテレビで日本語体操が行われていたが、それらについて本当に発音矯正等の語学教育に使えるかどうかにも検討したい。

そして、もし、使えるとすれば、ラジオ体操等を応用した語学体操は、従来のVTSとはどこが違うのか、共通点は何か、語学教育に効果的なことは何かについても触れてみたい。そして、川口VTS、語学体操等が国語科教育やスポーツの現場など他分野で貢献できるかどうかについても考えてみたい。